

カナダの金利引き下げについて

2015年7月16日

7月15日（現地時間）、カナダ銀行（中央銀行）は、政策金利を0.25%引き下げ0.5%にすることを決定しました。今年1月に0.75%に引き下げを実施した後は据え置きとしておりましたが、今回の会合にて年後半の成長見通し、政策金利ともに引き下げを実施しました。市場予想は引き下げと据え置きがほぼ半々となっておりますが、決定を受け、カナダは米ドル、円をはじめとした主要国通貨に対し、ほぼ全面安となっております。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

今回金利引き下げに至った背景としては、中国を中心とした前半の景気の弱さや、それに伴う生産ギャップの拡大、資源等を含めた商品価格の下落などが挙げられます。

米国経済については、過去の声明文で今後の回復を見込むと言及していましたが、今回の声明文でも大きな見方は変わっていないと見られます。一方で、中国の景気に対する不透明感、直近の資源価格の下落、輸出製品の価格下落などを踏まえ、前半のカナダ経済の成長は弱いとすうえで、物価の下落リスクなどにも言及しており、更なる刺激策が必要との認識を示しています。

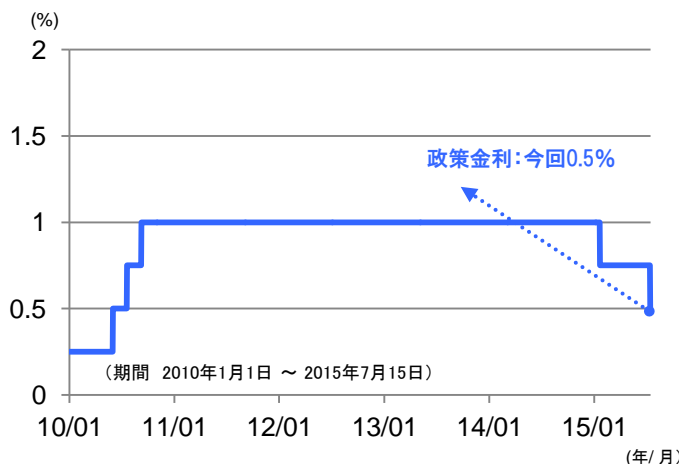
《今後の景気、為替レートについて》

経済指標では、6月の雇用統計において、失業率、雇業者数変化等は市場予想対比で良好な結果となったほか、住宅着工件数などの住宅関連指標、製造業PMIも改善しており、勢いが強まる方向にあるとは言えないものの、引き続き良好な結果が確認されています。但し、今月に入り原油価格は再び3月時点並の低水準に落ち込んでいるほか、期待ほどの伸びを示していない米国景気などの影響もあり、中央銀行の声明通り、カナダ経済については当面緩やかな成長に留まると考えられます。

カナダドルは、今回の決定を受け大きく売られ、対米ドルでは年初来の安値を更新していますが、政策金利引き下げによる通貨の下落は、輸出競争力の観点からカナダ経済に対してはプラスの方向に作用すると言えます。

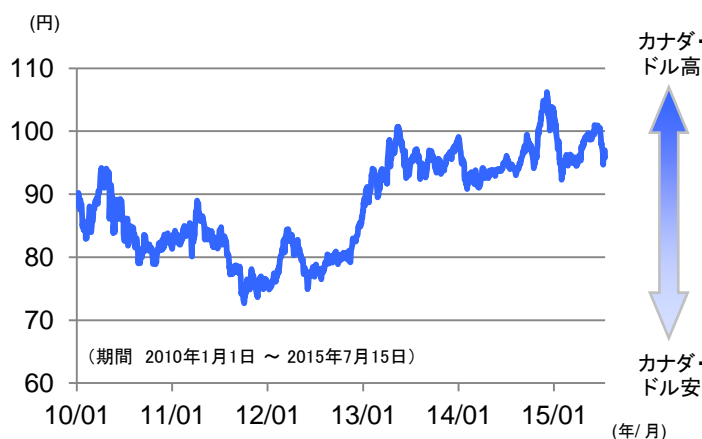
また、低金利による設備投資、住宅関連セクターへの刺激は、年後半以降にその効果が示現していくことが期待されます。原油価格は供給要因から短期的には大きな回復は望めないものの、中央銀行の政策効果、米国景気の回復に伴いカナダ経済は徐々に回復力を強めていくと想定しています。

《カナダの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《カナダ・ドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。